

新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 西村 和夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年の日高地方は、年明けの低温と一時的な大雪に見舞われたものの、その後は、大きな災害もなく、安定した穏やかな気候が続き、各作目ともに良い出来秋を迎えることができたものと考えております。

しかし、その穏やかだった気候とは裏腹にJAと農業を取り巻く環境は更に厳しさを増し、農協改革法案の成立、TPP大筋合意など、我が国の農業史上かつてない

程の組織情勢の変化があった一年となりました。

また、JAしずない、JAにかつぷ、JAひだか東の3JAの合併につきましては、本年2月が目標となっておりましたが、3JAとも財務の改善中ということで、合併につきましては、まだ時間のかかる状況となっております。

3JAで引き続き協議を進めていき、組合員皆様の理解と協力の中で、合併に向けての環境を整えていきたいと考えております。

地域の基幹作目については、各作目とも厳しい環境のもと、個々の経営での創意工夫と、更に各振興会を中心に「安全・安心・良品質」確保に取り組んできた結果、全体の取り扱いで当初計画を上回る成果となりました。各位のご苦勞に敬意と感謝を申し上げます。次に各作目について申し上げます。

水稲は、全道の作況指数104に対して、日高は103となりましたが、当地区では、整粒率の高

い良い作柄となったことに加えて、プライベートブランドの特別栽培米「万馬券」の食味が各方面で高く評価されたことを受け、高値で取引されています。

青果については、ブランド品として定着したミニトマト「太陽の瞳」については、春先の低温等の影響を受け、出荷量については、あまり伸ばすことができませんでした。

しかし、この低温による出荷時期のズレにより、他産地と出荷時期が重ならず安定した販売を行うことができたことから、取扱金額が過去最高となる9億3000万円に達し、青果全体では、10億円という大台を超える10億5000万円となりました。

また、この大台突破には、5組の新規就農者による約6000万円、目名地区のハウス団地の研修生の約4000万円という取扱金額も大きな原動力となっております。

今年も新ひだか町農業振興対策協議会と連携し、新規就農者及び研修生の支援を続け、地域の経営基盤の維持拡大に努めて参ります。

酪農については、前年対比で乳価（kg単価）が2円上昇し、出荷数量もほぼ前年並みであったことから、計画通りの取り扱いで推移しております。

黒毛和牛については、日頃から研鑽による素牛づくりが、市場関係者から高い評価を得ていることに加え、市場の素牛の不足感から平均購買価格は前年と比較して約9万9000円の増加となり、去勢で72万3000円、めすで62万1000円という高値となりました。

全体の取り扱いについても青果に続いてこちらも過去最高となる5億円という結果となりました。

最後に基幹産業である軽種馬については、国内経済に少しずつ回復の兆しが見え始め、更に東京オリンピック開催決定により加速感が出てきたことからののか、昨年の市場販売頭数及び販売額は、366頭、30億3000万円と前年同期比で48頭、5億7000万円と大幅な増加となりました。しかし、平均販売価格については、まだ低い状況となっております。今後の更なる国内景気の回復及び上昇を期待したいと思います。